

- 1 実施日時 令和5年6月28日(水)
- 2 実施学年 第5学年
- 3 実施教科 国語科
- 4 単元名 「みんなが暮らしやすい街へ」
- 5 学習の流れ



みんなが暮らしやすい街へ

小金井市作成の共生社会に関するパンフレットの授業を経て、本単元では、書籍やインターネット上の記述から引用したり参考文献として活用したりする活動を通して、共生社会を実現させるためにどのような工夫(ex. 音響付き信号機、スロープ、ノンステップバスなど)が身の回りにあるかを調べて紹介する単元である。

1. 教科書での内容確認。
2. 自分が注目する物を決める。
3. 調べ学習をしてスクールタクトにまとめる。
4. 全体で共有する。



6 Chromebook の活用

- クラブルームやチャンネルに、関連する HP の URL を HRT が用意し、自分が注目した物について調べ学習を行う。
- 自分が探している内容についてどのような書籍があるかを検索したり、校内にも設置されている物を扱う場合にはクロムブックで写真を撮ったりして、学習を進める。
- スクールタクトでの作品をクラス全体で共有する。

7 児童・生徒の様子

最初は「障害の有無」について注目する子が多かったが、実際に調べていく中で、「スロープはベビーカーを使う人にも重要な設備である」ということや「道路について調べていたが、急なカーブの前に設置されているボコボコした物は、普通のドライバー向けのものだ」といったことに気付く子が出始め、写真資料やグラフ、参考文献について記載して完成したそれぞれのレポートを読みあうことで、視野を広げることができた。「みんなが住みやすい」というのは、決まった障害や疾病を抱えている人のみを示しているのではないということを理解するとともに、相手が困らないように先回りして用意しておくことの素晴らしさに触れることができた。

マタニティマークについて調べていた子は、クロムブックで JR の駅の対応について調べ、実際に駅の窓口に向いて実物を貰って来るといった経験をした。また、探している設備が町のどこに設置してあるか、どのような様子かを Google earth で検索し、下見を行ってから現地の写真をとってくる子供もいた。

情報を手に入れるための手段を有効活用したことによって、児童の理解や考えは一層深まったと考える。

8 振り返り

共有することによって「こんな考えもあるんだ」と考えを広げることができた。コメント機能を使い、感想を伝え合うこともできた。

